信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

４年１組

いっしょに生きる　わたしたち

～特別支援学校の友だちと過ごす時間～

過ごす時間を通して〈わたし〉を知り、〈わたし〉が変わっていく

７月、障がいの有無に関わらず、誰もが働けるお店をつくりたいと話す地域のサンドイッチ店を見学したＡさんが、「ぼくは、障がいを調べるとか、障がい者がどうかって会いに行くとか、ぼくはそういうことじゃなくて、一緒に過ごすっていうか、そういう風になりたい」とクラスの仲間に見学後のふり返りの会で伝えました。私たちと一緒に過ごす友だち。Ａさんの思いを聞いたクラスの仲間たちは、附属小学校のすぐそばにある特別支援学校で生活している友だちのことが気になりました。「どんな友だちがいるのかな」、「どのような生活や学習をしているのかな」、「休み時間はあるのかな」など、特別支援学校の小学部の友だちのことについて話し合いました。Ｂさんが、「どうして同じ附属小学校なのに、学校の場所がわかれているのかな」と話しました。同じ年の小学校の友だちとして、学校は分かれていても一緒に過ごすことはできるのではないかと交流を願っていきました。

８月、自然体験園で思い思いに遊ぶ支援学校の友だちの姿を見ながら、「ヤギが好きなんだね」、「電車が好きなんだ」と友だちの興味を知ることができました。９月、オンラインで教室をつなぎ、お互いの教室の風景や学習で取り組んだ製作物を見合い、「学校は違うけれど、絵を描いたりものづくりをしたりと、楽しんでいることは同じだね」と様子を知ることができました。

１０月、少しずつお互いのことを知る時間を重ねてきた子どもたちは、栽培活動で収穫したりんごを特別支援学校の友だちに届け、野外でのりんごパーティーを開くことができました。そして、りんごのお礼にと、特別支援学校の友だちからバスボム（入浴剤）のプレゼントをもらいました。子どもたちはきれいな色とかわいい形をしたバスボムを見てとてもよろこんでいました。１１月は、特別支援学校の友だちが生活している教室や体育館に集まりました。体育館では一緒に体操をしたり歌を歌ったり、体育館でバレーボールをしたりしました。教室ではすごろくをしたり、絵本を一緒に読んだりしました。子どもたちは、お互いが学んでいる教室で一緒に過ごすことを楽しんでいました。

１２月にはバスボム（入浴剤）を一緒に作りました。特別支援学校の友だちが附属小学校へ来てバスボムづくりの材料や分量、つくり方の手順を教えてくれました。特別支援学校のＣさんの実演を見て、「すごい。プロだ」、「早い、きれい」と感動していました。

B さんが感じていた「どうして同じ附属小学校なのに、学校の場所がわかれているのかな」という疑問に、学校は分かれていても一緒に過ごすことはできるのではないかと交流を続けている子どもたち。これまで過ごしてきた時間をふり返る会で D さんは次のように話していました。

> わたし、なんか自分が変だった。わかんないけど。前は話しかけることもできなくて、でも、今は全然、友だちとしか思えなくて、自分が…なんか、変だったんだと思う。

D さんの話を聞いて、頷いている周りの子どもたちがいました。D さんと同じように自分自身の気持ちの変化に気づいたからなのでしょう。

続けて D さんは、りんごを一緒に食べたり特別支援学校の芝生山でゴロゴロ一緒に転がって遊んだりした時のことを思い出しながら、「障がいとかあっても、それは別に違いだけで、違いって個性みたいなもので。・・・今もやっぱりそう思う」と笑顔で話していました。一緒に過ごす時間を通して、〈わたし〉を知り、〈わたしの気持ち〉の変化を見つめる D さん。１月にも予定されている特別支援学校の友だちと過ごす時間をこれからも楽しんでいくことでしょう。子どもたちは、パラリンピックスポーツのボッチャ競技を一緒に楽しみたいと思っています。

６月の話し合いで A さんがクラスの仲間に伝えた「一緒にその場を過ごすこと。それが私たちにとっての交流である」という思いを、これからの交流を通して考えていきたいと思います。